

特別 声明

☆ 人民内部の矛盾の誤った処理を全人民の前に自己批判し同志を追悼する

同志の血と屍をこえて、ひるまず進め。

☆ 武装斗争と赤軍の旗を一層高く揚げ、労働者人民の真の前衛党建設にむけて前進せよ。

☆ 武装蜂起、人民戦争の旗の下、建党建军、遊撃戦を発展せよ。

¥50

共産主義者同盟赤軍派

①真相を究明し、真の自己批判の道へ

全ての同志兄弟達、人民のみならず。

連石赤軍の大量処刑についてわが同盟は特別調査委員会を設置した。「調査なくして發言なし」は大原則である。巷に洪水の如くあふれている敵権カーストの悪意ある情報どうのみにする愚は許されるべきである。敵権カーストの意図的に歪められた情報は、事実のなかにエマ

②規律問題の原則

と階級的偏重をい、ばいづめこんだ毒草である。敵は革命運動と武装斗争に対するあらゆる限りの罵倒と小市民的恐怖心と反感をヒステリックに煽りだしている。このようにして無判断の凶暴な弾圧を容認せよとする敵のあらゆる策動に断固として反撃しなければならぬ。

現在までに明らかになっている事実を基礎として、我々は以下のように考える。

敵は人民内部の矛盾につけこみ、最大限利用して、人民を分裂・対立させ、革命運動と武装斗争の力を弱めようと企んでいる。この点に於て、我々は敵に絶好の口実を与えたことを全ての人民と革命勢力に自己批判する。そして敵の陰謀を粉碎し、人民を二行固く団結させ、革

命運動と武装斗争の戦列を強化するためにも、わが同盟と人民の手によって真相を究明し、問題を解決しなければならぬと考へる。我々は、真相を究明したうえで、人民の手による（断じて敵権カーストによる）解決にむね、組織的な自己批判を徹底して進めてゆく決意である。

敵は人民内部の矛盾につけこみ、最大限利用して、人民を分裂・対立させ、革命運動と武装斗争の力を弱めようと企んでいる。この点に於て、我々は敵に絶好の口実

切り行爲である。革命战士は敵と直接闘っている時だけとはなく、敵に捕われている時でもあらゆる努力を尽して敵と闘い、革命战士としての気概を示さなければならぬ。どれほど英雄的に闘っても、逮捕せられて

そして敵の陰謀を粉碎し、人民を二行固く団結させ、革

敵に屈服し自供してしまえば台なしである。自供者に

対してはしるべき組織処分を行い、人民の厳しい批
判を受けさせなければならぬ。同時に、自派の組織
的根柢を徹底的に之くめりたすことが必要である。(今
回の逮捕者・自派者に限つて云えば、死刑を含む重刑
のどの一つにもあつたらず、処刑問題による幼稚な
かつたならば、絶対に自派することにはなつたであらう
我々は確信する。この点からしても処刑問題に対す
る態度こそが根本的向題であると云いつる。)

●次に、同志法廷、人民裁判による処分自体は決し
●誤りではない。とりわけ武装組織にあつては断固と
して必要であり、有益である。この点に對しては、
●このためにもあつてはならない。その際、注意すべ
●くことは、組織内の処分、相律問題を単に形式的、技
●術的・目的に扱つてはならず、基本的に大衆に依拠し、
●大衆を立ちあがらせて行うことである。密室裁判一肅
●者、スターリンの道ではなく、大衆路線に基づく人民
●裁判・革命運動は毛沢東の道である。今回の処刑な

人民裁判一整備の道ではなく、「密室」の道を採んだ
誤りとその責任は厳しく批判せしめなければならぬ。諸君
の道は革命組織の解体と変質への道であり、双方の格
好の改善材料である。我々は困難に直面する時は
ど二大衆に依拠し、大衆を思いきつて立ちあがらせ
る大衆路線の指し方云、批判一自己批判と整風の道で
歩み、組織のプロレタリア的階級的意識をうちきたえ
てゆかなければならぬ。

●次に、処分の内容そのものを検討しなければならぬ
●ない。処分の軽重は、革命運動と組織の発展段階によ
●つて想定されるので一律に決められるものではない。
●①スパイの場合、武装斗争が始まったばかりで組織が
●不常に危存にさらされていゝ現在のよつた段階で
●は、死刑は疑いもなく革命的で有益である。スパイを
●処刑すること自体が非常な勇氣と組織的決意を要する
●ことは明らかである。ちなみに、今日、スパイを処刑
●することの意義は組織の一体と目たけであるから、

たはずむにわたるべきだ。(スペインは必ず死刑)と夫
れをなわっているのではなく、具体的事情を考慮した
つて決定すべきであらう。もつと根本的には、スパ
イの入りこめば、組織、スパイ入り(い)んでも無言死
の組織を建設しなければならぬということだ。

「出」スパイとの斗争は死活的である。(現段階でス
パイを処刑することは、敵の隠謀をくじき、組織の団
結と規律を強め、人民の信頼を高める多大の意義を有
するであらう。今回死刑とした同志はスパイであったか
?。我々はそうは思わない。彼らもスパイではなかつ
たと考へうる十分な根拠がある。スパイでない者を処
刑することは明らかに誤りである。

①単なる消耗、作風が悪い場合、或は規律違反の軽
い場合、死刑すべきではない。(人民に対して罪を犯
した場合は嚴重に処罰すべき) 我々の組織は革命
組織、革命戦争の組織であつて、それはただ所の野蠻

、力、法律や金によつて支えられてはならない。
ジョージアの組織、ロア、軍隊、官僚科相、企業家、
と根本的に異なるのである。階級的自衛性の上に、組織
的規律、作風を存在するのであり、規律性、
ばいかなる規律、強制も無力である。E. H. H. H. H.

「ロ」タリヤートの革命的政治、共産主義的及び工
作によつてのみ培われ、培養され、組織が規律のな
かろうとされたらぬ。従つて、消耗や規律違反、悪
い作風を生み出した組織的感傷を払い、克己してゆか
ねばならぬのであり、個人の名譽だけを自衛にする
形式的な処分だけに頼つてはならぬ。その為、必ず
批判—自己批判の力をもち、自ら進んで規律を守らる

べきである。往々にして、指揮官(或は指導者)の
り、その点検、自己批判はたつと重要である。
①消耗し、或は規律違反の軽微なものは、
でも、一律に処罰すべきではない。我々の組織は

革命(た)つての手段を知らぬ。様々な強制(武器

をまり取りはつて、

処刑は誤りである。もしも勝者・逃亡者の処刑が一般化するば、なすって組織と人民と離れ、恐怖を導き、とりかえしのなないこととなるであろう。革命運動・武装闘争が、一時の「騒ぎ」でも「趣味」でもなるとは、おかしなものである。そのためにヤリガのすうに「口を閉つ」の女教師とくいに止め、林檎したるの言はかりあつて益なきである。革命的熱情と自奉性を失った者をひきよめておいても仕えない。逆に革命的熱情と自奉性にならぬと交えられてい出は、どんな犠牲もいとわなうたう。

①理論上、路線上の対立、方針上の対立の場合、() することにも、実践的なことを止してゆくであらう。又、処刑が同盟員・支持者、協力者や反範を人民に与えたショックは大きい。この損失をとり戻すためには何十倍の努力を必要とする。我々は少女の国への血と涙をこぼさぬままに進むべきであらう。

人民内部の矛盾と敵との矛盾と() 人別し、その処

理を誤りなきに注意しなくてはならぬ。今回の

処刑は、明らかに人民内部の矛盾の処理を誤った行為である。我々は考へる。オオいなミスや作風の不十分さ、路線、方針上の対立や脱落という理由を軽々しく処刑することは、なすって兵士も犠牲者たは、そのビフしたなり活動させ、政治的熱情を失わせて、本気の規律を弱め、遂には組織を崩壊に追いやる結果になるであろう。() 実際、易々と自供したり、投降、自首したりする者を出したのは、処刑による組織的効果は、因すると考へられる。()

今後、より詳しい事実を解明し、責任を明らかにす

同志を、やさしむに服水。

の規律問題の階級の性格

規律問題と組織の階級の性格とは切っても切り離せない。組織などの階級の立脚しているかによって結局は規律が規定されてくる。規約や一条を定めるボリスエライキとメンシエウイキの対立、毛天東の整風も、この問題である。従来から新左翼運動にまつわりついできた規律の弱々、アナトーキな傾向は、新左翼運動の小ブル的性格のありわらである。戦后日本共の敗北、変質に規定されて、基本的に革命闘争、テリゲンキヤ先進の運動として出発した新左翼運動は、能力向題一軍事問題、階級の同盟の問題一をめぐって、スロリタリフ的翼と小ブル的翼、革命戦争系と人民戦線系への救しい分化の局面に到達してしる。武装戦争の厳しい実践のなかで、被抑圧階級の、人民と結びつき、そのなかでスロリタリアートの階級の独自性をうちき、たててゆくことな向わ出している。新左翼運動の中から成長し分化してきた革命戦争系、我々も、この小ブル

的限界から自由なほう、たててを一回はからずとも暴

露したのである。我々の組織の決意、スロリタリフ的基礎の欠如（ほとんどな学生出身で労働者や被抑圧人民を組織しようとする構造になっていない階級の形成）の成方の問題（な大きな要因である。規律問題は単なる形式、外的強制の問題としてではなく、階級の根源にまで入る入り、全体的な政治、組織路線の観念から解決しなければならぬ）。今回の問題もこの政治、組織一路線の問題とわらななく結びついている。それ故、政治組織路線上の問題にまで振り上げてゆくことこそ最も重要であり、人民への義務である。

②武装闘争と赤軍の旗を高く掲げ、ひろまを推め、敵は一連の壊滅作戦を通じて一億総ハイ化と武装闘争への小市民的反感を煽って来た。連合赤軍の建構と階級派統率戦を、あらゆるブルジョア諸族、諸要素を動員して反革命世論を作り出すことに奔走した敵は、じつはかわらぬ 軽狂派統率戦での多大の損害と連合赤軍共士

我々は、敵の小さな確生によつても、たとえ我々自身によつても押こごめることはできない。結局は我々は、人民は勝つのであり、敵はどうあがいても敗れるのだ。10年、20年生きてみてみよ。お先真らうごわい、空を揮くばかりの未来が開けていゝてはなかり、革命的禁衛軍と意欲的祖传的能動性を待つて更に進め

④政治・祖伝路線上の問題に關して

我々が敗北を越えて進むためにも、一連の敗北と処刑と祖伝路線上の根柢まで考へることが必要である。我々は一連の敗北と処刑が単なる戦術的ミスにとごまるものではなく、ほんのちよつとした戦術上のミスに、つても壊滅の危険性と不断に隣りあわせているが、路線上の誤りに起因すると思われる。二二二故う月采経統されてきた祖伝証書を忠告公開するのみで詳しく明らかにするが、一言で云へば、トマシ主義的傾向、覺を望に解消する傾向であり武器の論理である。

昨秋以降一貫して証書を出して来たことは、わがやマル新が意図的にテックおけて来たような銃軍戦の是非にかといふ戦術問題ではなく、一統を軸とした海軍戦の実現それ自体に反対する理由があつたか、戦略的内容に關してである。即ちどの様な主体的な政治的・軍事的（戦略的）祖伝、祖传的觀望から銃軍戦を位置づけるかであった。この証書は、祖传的な系統性とより古い所の祖基盤の上で展開されることではない。かつたこと、更に中央軍のトマシ主義的傾向を批判し、まうとした我々が、この証書と一体のものとして、一貫した政治・軍事・祖传的結託を導び出すことができず祖传的系統性を保証しえなかつた、たゞいふ点に於て、限界をもつていた。今このことは、さうと首を批判されなければならぬ。

戦術問題に關して、戦術の目的は各段階に於ける主要な斗争形態を定の、副次的な様々な斗争形態を統合・結合することである。現在の戦術・主要な斗争形態は

都市下りう戦であり、この下に戦略的包圍（大衆斗争
 戦略的政治斗争）、戦略的浸透の要素を結合し、一体化
 してゆかなければならぬ。都市下りう戦は、戦術的遊
 撃戦は、戦術ラインに政治的察・田この死にももの狂い
 の三つであり、戦術ラインを动摇・マに、解体させる
 ことにより、敵の戦略ライン（自衛隊、独占、帝國主
 義の組合）に反撃をこころがける。こにがって持
 統・拡大、定着がカギである。向の戦術形態を高度化
 することだけで突破できるものではない。銃撃戦にと
 しても一挙に局面がかわるわけではなく、こ、自然発
 生的に銃撃戦が拡大・普遍化するわけでもない。都市が
 いう戦、戦略的包圍、戦略的浸透の三つの要素は、戦
 術的遊撃戦、武装蜂起と全人民的、革命戦争、世界革
 命戦争へと発展・展開すべき、戦略的観点から位置づけ
 られる。我々は下りう戦を絶対化・固定化するのでは
 なく、全人民的、革命戦争と世界革命戦争の計画から

革命戦争、世界革命戦争を準備してゆく組織し革命戦
 を建設してゆかなければならぬ。そして、革命戦の
 現段階に於る主要な内容が、党の戦略的分遣隊としての
 遊撃隊の建設なのである。都市下りう戦、遊撃隊は、
 主要な内容であるが唯一の内容ではない。他の要素と
 の結合の上でのみ存在するのであり、他の要素を切り
 捨てることは誤りである。我々が、ほとんど中野建
 設に集中し、トロツキ主義的傾向に陥ったことは、過一
 渡的には正当な意味をもっていた。八派の言法主義、一
 人民戦線派への転落、解体という状況下で、武装斗争
 を継続・発展させるために全力を集中して来た我々の
 相対的な正しさは、ちや武装斗争の玄化という条件
 下でより一足回拍、全面的に発展させなければなら
 ない。軍事至上主義と表裏一体の自然発生的な発展
 動機（右極主義）は、労働者人民に根をおろした社会
 党の建設を野積する傾向・党を黨に全て解消する傾向
 を生み出す。『党の個人化・軍の中の強化』と

スロータンは、この偏向に十分注意を払っていない。
党と軍との関係は、正しくは政治指下(指揮)と軍事
指下(指揮)の統一とあり、政治先行の原則
である。この原則は普遍的に正しい。(中共、ベト
ナム等の党或は党の軍人化、軍の中の党化として悉括
するものは全くの誤りである。)党の軍に対する絶対的
指導を保証する政治委員制度は、現時点では、遊撃隊
等の前線、細胞によって担われる。我々は、軍の中
に政治委員を遣出し、細胞を建設してゆかなければならぬ
。党の軍に対する指下、軍の指下系列は、基本的に
党の指下系列を通じて行なわれなければならない。我々
のめざすべき道は、真にプロレタリア的の根をもち
た道、労働者階級の道である。党は軍の建設と
政治的指導の努力を怠らねばならず、被抑圧人民の中に入
り、指導の力を強め、プロレタリアートの階級の独自性
を確立し、プロレタリアートの全人民の首領へ、プロ
レタリアートの高めてゆく能力をもたなければならぬ。

この努力こそ現任我々に最も欠けておるといふことを
理解しないならば、我々は単なる時勢に順応するだけの
トヘドモニではなく、これに終ってしまつたろう。
この点、軍の具置、再生産打倒の問題でも関連する
が、現任の手工業的建軍方法(ほんごう)と一本りの
O.Y.G.に頼っていることが、早晩壁にぶちあたることが
目に見えている。大塚は依然として大塚を動員し、不断に
大塚の中からカードル、戦士を補充し、再生産できない
組織は減じる組織である。我々は一旦、大塚の中へ入
り、大塚と一体化し、その中で大塚をプロレタリア
的規律でつちかえとゆく指下者、組織者とならな
ければならぬ。
最後に、我々はこの実践的総括を全精力をあげて貫徹
する。計装と赤旗の旗の下、同志を、せうかに服
し、我々は勝利する、人民は必ず勝利する。